

令和4年度全国学力・学習状況調査の結果および考察

大阪狭山市立南第一小学校

1. 本年度の全国学力・学習調査結果の学力の概要について

- ・対全国比の平均正答率は、どの教科も低くなっています。
- ・国語については、特に「話すこと・聞くこと」、「読むこと」に課題が見られました。
- ・算数については、特に「数と計算」、「図形」、「データの活用」の領域について課題が見られました。基礎の計算問題、割合と基準量から比較量を求める問題は良好な結果でした。
- ・理科については、特に「粒子」、「生命」を柱とする領域について課題が見られました。実験器具の正しい扱い方を問う問題は良好な結果でした。
- ・選択式の問題では無解答率が低かったですが、短答式や記述式の問題では、無解答率が高かったです。複雑な問題にも粘り強く取り組むことができるよう、さまざまな形態の問題に慣れる必要があります。

2. 各教科における成果と課題について

	成 果	課 題
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・「話すこと・聞くこと」の設問で、必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が伝えたいことを中心を捉える問題は、多くの児童ができていました。 ・質問紙調査の「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」について、肯定的な回答が高い結果でした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ごみ拾い」か「花植え」かのどちらかを選び、条件に合わせて自分の考えを書くなど、記述式の問題で正答率が低く、課題があります。 ・漢字を文の中で正しく使う問題や、漢字や仮名の大きさや配列に注意して書き直したものについて気をつけた内容を正しく選択する問題でも、正答率が低かったです。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・被乗数に空位のある整数の乗法の計算は、全国の正答率を上回り、多くの児童ができていました。 ・他にも全国の正答率を上回った問題が複数あり、算数の少人数指導を積み上げてきた成果が見られます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・二つの数（14 と 21）の最小公倍数を求める問題や、百分率で表された割合（25%）を分数で表す問題など、基本的な内容においても正答率が低く、学習の定着に課題があります。 ・記述式や短答式で解答する問題で、無解答率が高かったです。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・解決する問題をもとに、観察の記録が誰のものかを選ぶ問題では、多くの児童ができていました。 ・メスシリンダーの正しい扱い方や、夜の気温の変化について表したグラフを選ぶ問題では、全国の正答率を上回っていました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・器具の図を見て「メスシリンダー」と名称を書く問題で、誤答や無解答が多く、学習の定着に課題があります。 ・鏡ではね返した日光の位置が変化していることをもとに、新たに追加した手順を書くといった短答式の問題で、無解答率が高かったです。

3. 児童質問紙調査の結果の概要について（肯定的評価の割合）

〈取組みの成果があらわれている、または特徴的であると思われる事項について〉

- ・「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」という項目に、多くの児童が肯定的な回答をしました。「感じよう 学ぶ楽しさ わかる喜び」という校内研究のテーマで、日々の授業において一人ひとりが自分で考えることを大切にしてきた成果です。
- ・「算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか。」という項目で、肯定的な回答が全国や大阪府よりも高い結果でした。また、「理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えていますか」という項目で、多くの児童が肯定的な回答をしました。
- ・「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか」という項目に、多くの児童が肯定的な回答をしました。これまでの、表現活動や地域間の交流活動などに取り組んできた経験などが、結果に表れていると考えています。

〈今後に向けて、課題と思われる事項について〉

- ・「朝食を毎日食べていますか」や「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」といった基本的な生活習慣に関わる項目で、肯定的な回答が全国や大阪府よりも低い結果でした。
- ・SNSや動画視聴、ゲームの時間が1日に2時間を超えていると回答した児童の割合は高く、「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」に肯定的な回答をした児童の割合は低かったです。
- ・ICT機器の活用に関する項目で、学校で使う頻度が少ないという結果でした。
- ・「学校に行くのは楽しい」という項目で、肯定的な回答の割合が低かったです。

4. 成果と課題を踏まえた今後の取組みについて

- ・日々の授業で、児童が自分で考えることと、考えたことを互いに伝え合い、質疑応答したり、考えを深めるために話し合ったりすることを、さらに大切にしていきます。
- ・語句の意味が理解できていないことによる課題が大きかったので、語彙力を高めるため、授業中に語句の意味を問いかけたり、辞書やタブレットを使って語句の意味を調べたりする場面を増やします。また、文の意味や文章全体から読み取れることについても、確認し合うようにします。
- ・国語の授業に限らず、自分の意見を書く場面では、複数の条件を示し、それらの条件に合わせて考えをまとめる機会を、さらに取り入れます。
- ・文の中で正しい漢字を使えるよう、意味を確認したうえで漢字の書き取りをすることや、算数や理科などの用語が定着するよう練習問題に取り組むことを増やします。
- ・基本的な計算に自信を持てるよう、授業中はもちろん、朝の学習や家庭学習においても、さらに計算問題に取り組めるようにします。また、算数や理科の授業では、問題を解決するための方法や、式や結果の意味を問いかけて、児童が説明し合う場面を大切にします。
- ・一人ひとりの児童が求められている力を身に付けられるよう、課題の大きかった問題と類似の問題に取り組む機会や、児童がタブレットを使う機会を増やします。

5. 保護者・児童のみなさんへ

6年生のみなさん、この調査をした日（4月19日）には、たくさんのテストがありましたね、最後までねばり強く取り組みましたね。みなさんは、難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦する人たちです。学校のリーダーとして、学校みんなのために、がんばってくれています。授業中は自分の考えをノートに書き、それをクラスの中で伝え合い、よりよい考えとなるよう話し合っています。みなさんの力は、着実にのびています。どの授業でも、どの取り組みでも、「自分から取り組み、自分で考える」ということを大切にして、自分たちで楽しい学校をつくっていきましょう。

一小的なみなさんは、どの学年の授業でも、落ち着いて学習しています。先生たちも、学校で学習することが楽しいと感じられる授業になるよう努力していくので、みなさんも、学習の楽しさを見つけてください。また、テストだけでなく、あきらめない気持ちや集中して取り組む力、細かいところにも気を付けて読む力は、生きていくうえでも必要なもので、のばしていきましょう。提出物を自分で忘れずに出すことや忘れ物をしないようにすること、宿題を毎日やりきる力も大切な力です。これらの力も、もっとのばしていきましょう。そして、宿題に何か+（プラス）して学習してください。みなさんの力はグングンのびますよ。

保護者のみなさん、家庭における「早寝、早起き、朝ご飯」の習慣や、ゲームなどをする時間を決めるといったことは、子どもたちの成長のため、とても大切なことです。学習の意欲や定着にも、深く関わっています。課題がある場合は、この機会に見直してください。

どの子どもも無限の可能性を持っています。学校と家庭で力を合わせ、一人ひとりの可能性を広げ、社会でたくましく生きていくための力をのばしていきたいと考えていますので、今後ともご協力をお願いします。